令和５年３月

桃山中学校ハッピー桃太郎だより

～誇りのもてる学校をめざして～

よきご縁に感謝

校長　寺 本 実 春

ほころび始めた桜の蕾とにらめっこしながら、毎年春が来れば、咲き誇る桜の花を見られるのが当たり前だと思っていたことに気付きました。「咲いた花見て喜ぶならば　咲かせた根元の恩を知れ」このような言葉があるのをご存知でしょうか。見事な桜の花に感動し、見上げてばかりの私が立つ地面の下には、目に見えない無数の根が水や栄養分を運び、幹をしっかりと支える役目を果たしています。人も同じで、生きている限り支えてくれる人の存在が、どれほど大事であるかを決して忘れてはならないと思っています。

さて、私事ではありますが、今年度をもちまして教員生活を終えることになります。平成７年に桃山中学校に赴任した時は、まだ 30 代前半でした。教職に慣れてきた頃とはいえ、何度も壁にぶつかりながら、少しでも指導力を高めたいと苦闘していたことを思い出します。その後、どれくらい成長できたかは分かりませんが、教員生活最後の３年間を、またこの桃山中学校で過ごせたことに深いご縁を感じています。コロナ禍で考えが行き詰まり、不安や迷いが多かった日々も、生徒たちの笑顔や頑張りに力をもらい、保護者や地域の皆様の支えと教職員の協働力で学校経営を進めていくことができました。私にとって、最後に携わる学校が、この桃山中学校で本当によかったと心から思っています。どうぞこれからも、生徒たちを温かく見守ってくださいますようお願いします。皆様の未来に幸多きことを祈っています。これまで大変お世話になり、ありがとうございました。

//

３月９日に令和四年度卒業証書授与式を執り行い、113 名の卒業生が学び舎を巣立っていきました。式辞の中で、宮澤章二の「自分の一歩」という詩を紹介しました。

いま　わたしの踏みしめる一歩は　だれか他の人の一歩ではない
わたしの足が　地上に刻む一歩は　いつでもわたし自身の一歩なのだ
他の人より　一歩先を歩くからといって　他の人より優れているとは限らない
他の人より　一歩あとを歩くからといって　他の人より劣っているとは限らない
自分の目標を定めて　歩き出したのだから
自分の一歩を　しっかりと信じて進もう
その決意が　最後まで歩く力を生む
出発点には　〈人生〉など　まだない
到着点にこそ　わが〈人生〉はあるのだ
歩きつづけ　生きぬいた　尊い証明として

１・２年生の皆さんも志をもち、到着点に向けてしっかりとした自分の一歩を踏み出してください。そして、これまでも繰り返し伝えてきましたが、様々な出来事や関わった人たちへの感謝の気持ちを忘れず、常に謙虚な姿勢で学び続け成長していってほしいと思います。